



## 八地申14号 中央線特急新着席サービス導入に関する申し入れ提出 安全で安心して実施できない施策は延期すべき

「あずさ」「かいじ」が新型車両（E353系）に置き換えられることから着席サービスを導入するとしていますが、八地申11号解明交渉では、プレス発表前に新着席サービス導入に伴う社員周知がなされず、職場が混乱し、また中央線ご利用のお客さまは、訪日外国人や旅行者など不慣れなお客さまが多く、このまま新着席サービスが導入されれば、安全・サービスレベルの低下に繋がることになりました。組合員の安全レベル・サービスレベルの向上はもとより、お客さまが安心・安全に利用できる施策にしなければいけません。私たちは、公共交通機関の責務として、安心して利用出来る鉄道を築くと共に、サービスレベルの向上だけでなく、車内秩序の維持の観点から安全の確保も同時に担保しなければなりません。

関係組合員のみならず利用者の理解を得る事が重要です。残念ながらそうなっていない現状を鑑み、不安の解消と問題点の改善を目指して下記の通り申し入れを行ないました。

1. 想定できるトラブルに対する取り扱いを明確にし、不安なく対応出来る様に、全社員に対する教育と現車や実機を使用した訓練を、ダイヤ改正までに終了させること。
2. 車内発売実績が1割という根拠と列車ごとの発売枚数を明確にし、事前購入できる環境を整えること。
3. データの送受信が出来ない区間を明らかにし、乗務員が不安なく業務が出来る体制の構築とお客さまへの周知を行うこと。
4. 運転担当と客扱い担当の役割を明確にし、データ送受信のための準備時間を設けること。
5. サービスレベルの向上の観点から、現状の車掌体制を確保し、更に車内秩序の維持のために支社社員、警備員を同乗させ安全の確保を行うこと。
6. 訪日外国人や不慣れなお客さまが多く利用する事から、特急停車駅に案内係を配置すること。
7. 臨時特急では、E257系が使用されるが、新着席サービスの設備がなく利用者が混乱しサービスレベルが低下する事から、E257系を使用しないこと。
8. 企画乗車券の廃止や値段設定への不満が多く、著しく信頼を失墜する恐れがあるため、会社が責任を持ってお客さまの声を集約し、労使で議論をする場を設けること。
9. 上記全8項目において、労使の認識が一致しなかった場合は、施策を延期すること。

## 地域と連帯し、安全安心して利用できる鉄道を創造しよう！